

岐阜県
恵那市

耕作放棄地が増える里山で、
馬と子どもがともに暮らす循環をつくります！

馬と、暮らす。

里山暮らしから育まれる“生きる力”

ほあかりの森 代表 赤塚 寛



自己紹介



赤塚 寛 Hiroshi Akatsuka

- **元小学校教員**：夫婦ともに教員。日々子どもたちと向き合う中で、自然の中での育ちの必要性を強く痛感。
- **名古屋から恵那市明智町へ移住**：豊かな自然を求めて移住。養蜂業で新規就農者になる、自然体験活動を立ち上げ。
- **現在の暮らし**：家族とともに、里山の自然と多様な生き物に囲まれながら、自給と循環の暮らしを実践中。

現在の活動：ほあかりの森

🌿自然スクール

ほあかりの四季を通じて里山暮らしをテーマに週1で活動。

🍯豊かな森を活かす養蜂業

森のアカシアや栗、そよごなど、多様な樹木から集める天然ハチミツを販売。

🌿イベントコース

年7回休日にほあかりの四季通じた里山を体験してもらうコース。



重なり合う「2つの課題」

子どもの課題

「体験」と「居場所」の枯渇

- **不登校の急増**：学校外の多様な育ちの場が不足
- **五感の喪失**：デジタル化による自然体験の減少
- **つながりの希薄化**：地域から子どもの声が消える

里山の課題

「活用」と「管理」の不在

- **放置林の増大**：手入れの止まった暗い森の増加
- **資源の未利用**：価値が引き出されない山林資源
- **担い手の不足**：山に入る若者がいない現状

→ 「森」を子どもたちの最高の教室へ

養蜂が教えてくれたこと

みつばちから学ぶ「いのちの循環」

- 豊かな森があるから、蜜が採れる：アカシアや栗など、多様な樹種が育む豊かな生態系が養蜂を支える最大の土台。
- 農地があるから、花が咲く：里山の田んぼや耕作放棄地の野の花々が、みつばちの大切な食料に。
- 森と農地と虫たちは繋がっている：人が手を入れ、自然を循環させることで、すべての生命が恵みを分かち合う。



放置された里山との出会い



放置された里山が抱える現状

- 暗い森・光の届かない床面：長年手入れされず、太陽光が入らずに下草が生えない荒れた里山。
- 危険木・立ち枯れ木の放置：風倒や崖崩れを誘発しかねない木々の増加。
- 価値が生かされていない土地：地域の重要な里山資源が、誰にも使われずただ眠ったままに。

「しかし、ここに人の手が入り、馬と子どもが加わることで、この森は地域を再生させる『宝の山』に変わる。」

なぜ「馬」なのか？里山を再生させる力

馬は、言葉を超えて 子どもと森を動かす。

🌟① 子どもを変える（情緒の安定）

言葉の通じない大きな馬は、人間の感情を敏感に映し出す鏡。ありのままの自分を受け入れてもらう体験を通じて、子どもたちは深い安心感と折れない自己肯定感を取り戻します。

🌟② 人をつなぐ温かいコミュニティ

馬がそこに一頭いるだけで、子どもから高齢者、都会の人から地域住民まで、自然と人が集まり笑顔で言葉を交わす、地域コミュニティの温かい結いの中心地が生まれます。

🌟③ 森と農地を活かす（実用的な相棒）

重機が入らない狭く急な林道でも丸太を運び出す「馬搬（ばはん）」での森林管理、耕作放棄地の開墾、そして最も重要である高品質な「馬糞堆肥」が、荒れた土壌を豊かな農地へ蘇らせます。



※イメージ図です

岩手・三陸駒舎に学ぶ「森の新たな価値化」

木を売らない林業の形

【「材木」に依存しない多角的収益価値】

岩手県遠野市の「三陸駒舎」を2026年6月に視察。「森・里山空間そのものを福祉・教育・宿泊（観光）資源にする」という多角的経営を実践。

3大収益資源の確立：

- ① 公的報酬（ホースセラピー療育・放課後デイ）
- ② 民間月謝（会員制教育牧場）
- ③ 観光（古民家民泊・馬トレッキング）

森の未来のファンをつくる

【能動的に関わり、担い手を育てる仕組み】

- **森の仕事をエンタメ化**：馬の世話、薪割り、林道整備を、子どもや大人が役割を持って主体的に楽しむ みんなの居場所に転換。
- **自立した支え合い**：多様な生きづらさを抱える若者が、馬の世話を通じて役割（誇り）を持ち、地域を支える主体へ。
- **自然なバトンの継承**：森の恵みを五感で愛して育った子どもたちが、将来「森を守るプレイヤー」として健やかに帰ってくる好循環。

「馬を真ん中に置くことで、福祉と森の暮らしが最高に美しく溶け合う」

目指す姿：地域を育む「ほあかりの森」

01. 豊かで安全な「森」

適切な間伐と道づくりにより、光を入れ、多様な動植物と人が共生するベースを構築。

02. 暮らしを助ける「馬」

森を荒らさず間伐材を運び出し、農地の雑草を食べ、子どもたちの心強い相棒に。

03. 心地よく育つ「子ども」

森と馬に見守られ、ありのままの自分でいられる安心感。五感と知恵を伸ばし育つ。

04. 自立して繋がる「地域」

森の恵みと豊かな活動を通じて、森を愛する次世代の地域サポーターを育てる。



里山循環モデル：エコロジカル循環の仕組み

【森林保全・自然農業・地域福祉】が自然のままに連鎖する、循環型生業システム

1



① 森の整備

荒れた暗い森を間伐し木を有効利用。健全で明るい林床の復活へ。



2



② 馬の暮らし

切り出した間伐材で馬小屋・牧柵を100%手作り。馬糞敷料を有機堆肥へ。



3



③ 農地の再生

高品質な馬堆肥を投入して耕作放棄地を復活。無化学肥料でハーブや菜の花を育成。



4



④ 里山養蜂

再生した農地の多様な花々や森の樹木から、みつばちが極上のはちみつを回収。



5



⑤ 活動資金

はちみつ販売の収益を獲得。すべて森のさらなる手入れと子どもの活動へ再投資。

活動収益はすべて「森のさらなる整備と、子どもたちの活動資金」へ再還元され、循環が回り続けます

クラウドファンディング成果：応援の広がり

2026年6月時点 目標金額達成！！

みなさんのお力をいただきました！

現在の支援総額

311万円

ご支援者数

190名

【ネクストゴール：500万円】

馬と人が安全に関われる環境を整えます。

- ・馬具購入費：100万円・馬小屋のための資材費：50万円
- ・放牧地整備費：50万円



メディア注目：中日新聞東濃版にも私たちのプロジェクト活動が大きく掲載され、地域内外から熱い話題と注目を呼びました。

全国からのエール：地元の恵那市明智町の皆さまをはじめ、自然教育、動物セラピー、さらには林業再生に関心を持つ仲間が日本全国から集い、参画しています。

Slide 11 / 15

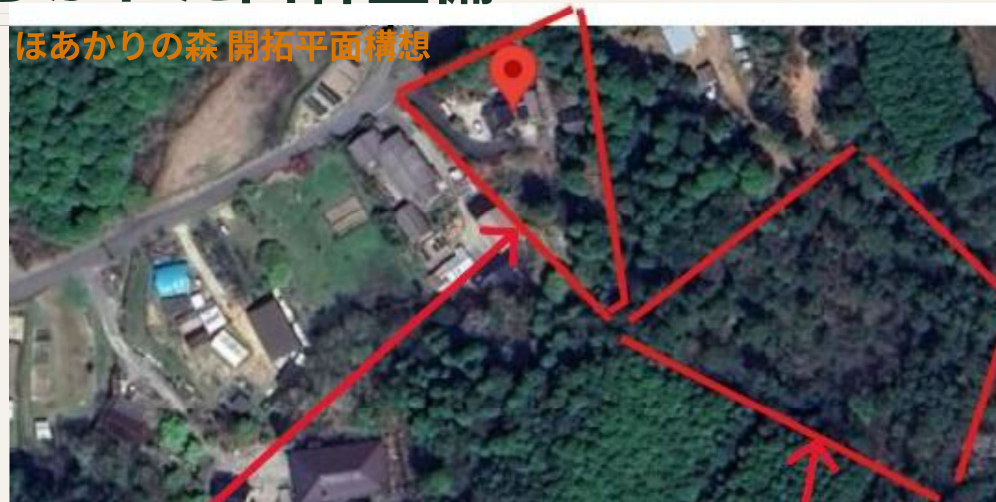
これからの森づくり：安全でひらかれた山林整備

森林計画の進行

【森の魅力創出支援事業補助金を申請活用】

- 馬の動線（馬搬道）の確保
- 子ども体験エリア
- 散策路整備

ほあかりの森 開拓平面構想



地権者様との強い協力関係のもと、馬専用の放牧エリア、馬搬林道、そして安全に管理された子どもたちのプレイエリアを融合。



現在のほあかり活動場所山林1000平米



新たに購入山林3000平米

森は人を育てる：子どもも、大人も、地域も

私たちは、ただ馬を飼うのではなく、
里山に新たな命の循環を取り戻そうと
しています。

そして、そのすべてのプロセスに関わる人々（そこに通う子どもたちはもちろん、山林に新しい価値を吹き込む森林関係者の皆さん）が、共に心地よく、誇りを持って育ち合える、そんな豊かな未来の景色をこの恵那の地から創り出しましょう。

「ご清聴ありがとうございました。
皆さまとのアドバイスや、これからの協働プロジェクトのご提案を心よりお待ちしております！」

